

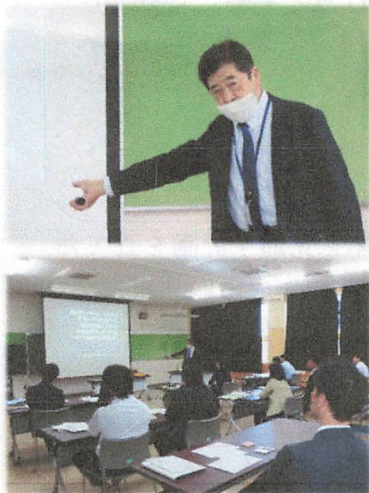
第1回校内研修会を終えて

英語“ワクワク授業”研究所の代表中嶋洋一先生にお越しいただきました。5限目の授業公開では、先生方の授業をご覧になられてすぐに、「この部分はこうするとよくなる」と授業改善のポイントを教えてくださいました。その後、「生徒だけでなく、教師も“ワクワク”できる授業を作るために」という演題で講話をしていただきました。講話を終えての先生方の感想を紹介します。

講話を聞いて最初に感じたのは、中学生のときに中嶋先生の英語の授業を受けたかったな—ということです。単なるリピートアフターミーは読めない生徒にとっては本当に苦痛でした。研修前に連載を読ませていただき、第3回の「人は好きな人からしか学ばない」というコトバに非常に共感しました。授業を生徒指導や学級マネジメントと考える内容は「そう！そう！」と思わずうなずきながら読んでしまいました。授業を行うときも、行事を行うときも、ゴールの姿から逆算して考えることは、自分もここ数年で考え始めたことで、具体的な方法論まで聞いたことはこれからのレベルアップに役立てていけると思いました。

Tips for Eveyday Classes 第2回の『質問力が授業を変える』は、授業でいつも自分が上手にできないなと感じている部分だったので、はっとさせられました。また、「生徒の本時のめあてが、やってみたいになるように」や「ゴールに向かっていく逆算計画」については、知ってただけで実践できていない部分だと改めて向き合うことができる機会となりました。

自身の授業のリニューアルの手順が見えてきました。ゴールからの逆算、指導要領によって見えてくる「付けたい力」の設定など、根本的な所に改良が必要だと分かって良かったです。



「教師がワクワクしていることが一番の生徒指導」という言葉が印象に残りました。生徒がワクワクすることはもちろん、自分がワクワクする授業をつくることができるように工夫していきたいです。学習指導要領をしっかりと読みこみ、理解し、授業で教え、テストで力試しができるような計画が大切であることも理解できました。これからは逆算をし、「Begin with the end in mind.」を心にとめ、単元が終わったあとの生徒の姿、3年卒業時の生徒の姿をイメージして授業づくりをしていきたいです。

講話の中で自分の考えを持った途端、答えが気になった自分がいたので、生徒にもそのような体験を日々の授業でさせていきたいです。今後の授業でも個別最適などすぐに実践できそうなものに取り組みながら、他の先生方の授業も参考にしていきたいです。

今回の研修を受けて、授業づくりや目標の決め方について学ぶことができました。授業のつくり方や活動のとり入れ方で悩むことや上手いかわないことも多いですが、生徒の立場になって、楽しいもの、やりたいと思えるような授業を目指したいと思いました。発問や指示のタイミングが難しく、「内容を教えなきゃ」と思うほど私の説明が多くなってしまっているのが、生徒を信じて「待つ」ことを意識していきたいと思います。



単元を通した課題設定は昨年よりも意識して取り組んでいるので、生徒が「何のためにしているのか」がきちんと意味づけられるようにしていきたいです。また、必要感のある学びになるように、自分ごととしてとらえられるような仕掛けを考えていきたいです。思考ツールを効果的に使うことで、頭の中が整理されていくと感じたので、単元のまとめで活用していきたいです。単元の最後にどんなことができるようになればよいのかをイメージして、逆算して日々の授業を組み立てていきたいです。

ゴールを示してつきたい力を生徒に伝えるということはしているが、何のためにそれを目指すのか、なぜそれが必要なのかということ、導入から引きつけて興味ややる気を出させるのが本当に難しいです。しかし、今日の研修で中嶋先生のご講話の仕方がまさに手本となるもので、問いかけや疑問の投げかけに引きつけられて、深い学びを得られたように思います。自分の授業、指導案を振り返って、バランスのよい展開を工夫・改善していきたいです。ゴールから逆算した流れを考えてみたいです。

先生方の感想の中で、「ゴールを示す」、「逆算する」という言葉が多く見られ、今後の学校研究の推進に向けて前進できたように感じました。このようなきっかけをくださった中嶋先生、本当にありがとうございました。

最後に、本校の研究主題、重点取組を再度確認しておきます。

研究主題 目標達成に向けて、共に学び合う生徒の育成

～AARサイクルを意識した授業実践を通して～

《重点取組》

- (1)見通しを持つ → 「単元マップ」の作成・活用(学びは我が事と捉えさせる。)
- (2)実践する → 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実。
- (3)振り返る → 「振り返りシート」の作成・活用(学びの値打ちを実感させる。)

AARサイクル(見通しー実践ー振り返り)

Anticipation(見通し, 前もって準備する, **楽しみにする**)

Action(行動する, 行動を**起こす**)

Reflection(反省する, **熟考する**, **反映する**)

生徒に力が付いたゴールの姿をイメージし、そこから逆算して単元全体を見通す計画を立てたり、1時間の授業を組み立てたりしていくために、まずは、「単元マップ」の作成に取り組んでいきましょう。

また、日々の授業においても、目標(ねらい)を子どもが達成した姿で明示し、そこに向かうまでの流れ(ストーリー)を提示し意味づけることや、生徒が「やりたい! 考えたい」と思えるような課題設定や発問、活動場面の設定などを実践し、先生同士で上手くいったことはどんどん共有していけると良いと思います。

忙しい毎日ですが、生徒の“ワクワク”した表情を想像しながら授業作りを頑張りましょう!